

VI. おもしろ学問人生の成果とミトコンドリア博士の未来医学

その1. ミトコンドリア医学ことはじめ

1920年代にワームブルグが見つけた癌組織の細胞内呼吸の変調が、癌化した細胞内のミトコンドリアの突然変異による可能性を考慮して、1968年に酵母を用いてミトコンドリアの突然変異発生の原因究明に関する分子生物学的研究を始めたのが私の研究生活のスタートであり、学位論文のための本格的な研究のはじまりです。これが私のおもしろ学問人生の出発点となりました。酵母や動物等の真核生物の蛋白質合成系と細菌類(原核生物)の蛋白質合成系が異なることを利用して、酵母の染色体の核の細胞質における蛋白質合成系を阻害する系と、ミトコンドリアの蛋白質合成系を阻害する二つの実験系を組んでミトコンドリアの機能の変化を観察し、突然変異発生の有無を調べました。元来酵母にはミトコンドリアが働かなくなるとコロニーが小さくなるプチ mutant というミトコンドリアが突然変異を起こした変異株が知られていました。

野生株の酵母の培地に蛋白質合成阻害剤シクロヘキシミドを加えると、高率にプチ mutant が発生しました。一方ミトコンドリアの蛋白質合成系を阻害するクロラムフェニコールを培地に加えると、ミトコンドリアの呼吸が止まるだけでプチ mutant は生じず、培地から抗生物質を除くと野生株が復活します。当時から糸粒体の細胞質蛋白質合成系はミトコンドリアの呼吸に関与する一群の酵素系のみをつくる事が明らかとされており、ミトコンドリア自体の遺伝子群を複製する酵素系すなわちミトコンドリアの DNA と RNA 複製酵素系 (Mt-DNA、RNA ポリメラーゼ) はミトコンドリアの遺伝子座には存在せず、核の染色体の遺伝子座(酵母の真核生物の遺伝子)に移動している事も明らかにされてきました。すでに当時からミトコンドリアは数十億年前に大型の真核生物に寄生したバクテリアの一種であるとする定説がありました。

つまりミトコンドリアの遺伝子複製酵素群は、宿主の細胞内の蛋白質合成系(アミノ酸をつなげてポリマーにする合成システム)の働きに依存する細胞内の小生命体だったのです。従って宿主の細胞が苦境に立たされれば、ミトコンドリアも荒廃する恐れを常に秘めていると言うことです。一つは温熱、寒冷エネルギーが恒温動物の体温調節の限度を越えた時と、もう一つは腸内の常在性の微生物の細胞内感染症です。これは、口呼吸か冷飲料、手足の冷却等による風邪症状で発症します。その他は毒物の摂取がありますが、これは例外です。ワームブルグが癌細胞の特徴として、細胞内呼吸のミトコンドリアの荒廃が深く関わることを発見したのが1920年代です。この事に着目して筆者は二十年前から難病発症の原因究明の研究を行い、癌のみならず全ての難治性の疾患が自分の腸内の常在性微生物の細胞内感染症によるミトコンドリアの荒廃にあることを世界にさきがけて発見したのでした。これが最近の難治性疾患に関する私の臨床研究の最大の成果です。

ミトコンドリアの活発な働きには温度依存性があり、同時に無害の常在性の腸内微生物の細胞内感染症の有無にも大きく依存しています。このことは、哺乳

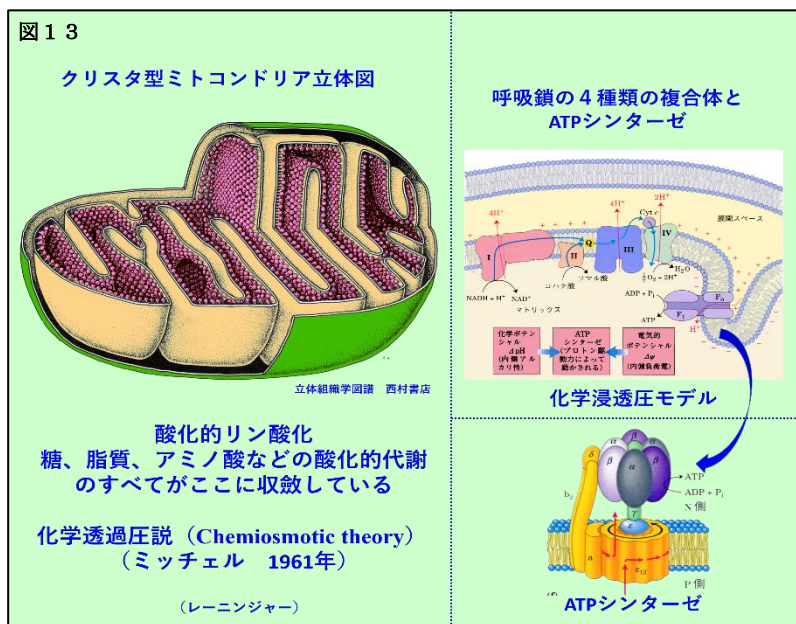
動物の対微生物に対する免疫力と完璧に一致しているのです。つまり免疫力とはミトコンドリアの活力と同義だということです。ミトコンドリアは成熟した赤血球以外のすべての細胞内において細胞呼吸を担当し、エネルギー物質のATPを産生しながら体温をはじめとして計算、思考、こころや情念、魂といったエネルギーを生み出すとともに特殊細胞のもつ特殊機能のすべてを担当しながら、さらに細胞分裂やほころびの修復、リモデリングからエイジングまでも担当します。

さながらヒトの社会の村や町、郡や県、国家に至るまでの共同体における全員の一人一人の人間の役割を果たしているのがミトコンドリアです。これまで高等生命体の生命の基本単位が細胞とされて来ましたが、細胞内には細胞小器官として遺伝子を持った小生命体のミトコンドリアが数千も存在し、多くは腸内常在菌が沢山共存しています。一個一個のミトコンドリアが互いに情報蛋白質で連繫しているとともに多細胞内のそれらとも連繫しながら、超多細胞多臓器を持つ哺乳動物の統一個体としての制御機構が、血液を通して脳下垂体のホルモン系、生長因子系、神経ペプチド系により働いています。

哺乳動物の生命個体と細胞内のミトコンドリアの仲を取り持つ物質が血流とリンパ流であり、その中を流れるのが前述した情報蛋白質です。そして脳下垂体は、胎生期の口蓋粘膜のラトウケ囊から発生するために、脈絡叢とともに血液脳関門がここにはありません。そのために睡眠中のいびき（口呼吸）ごときで

糖尿病や腎性の高血圧症や腎炎になります。咽喉部の腸内常在菌を抱えた顆粒球が睡眠中に全ての腸管内臓器官に生長ホルモンを配達しますが、この時にホルモンとともに腸内微生物を内臓に配達して内臓器官に細胞内感染症を、無症状に発症するのです。口呼吸といびきが極端に多い日本人は世界で最も糖尿病と腎臓病が多いのも宜なるかな。

ミトコンドリアの機能から病気を考えると、難病の理解は極めて容易となります。このものの働きは温度依存性があり、42℃になると壊れて死んでしまいます。至適な温度は37 - 37, 5℃くらいで、36, 5℃以下では働きがにぶります。さらに低くなると、冷血動物のシステムが働いて、腸内細菌やウイルス



が自動的に顆粒球に抱えられて体中の血液を巡り、これらの微生物をばらまき細胞内感染症をおこし、あちこちの細胞が難病におかされます。わが哺乳類も冷血動物から進化して来ているので、そのしくみが作動するのです。今日本中で困っている乳幼児の自閉症、発達障害、アスペルガー等は、すべて早期に与える離乳食病かアイスクリン病で、かなり単純な腸内悪玉菌による脳症で発症するものです。哺乳動物の乳児は授乳期間中に母乳ないしそれに準ずるミルク以外を与えると、大変な災いを引き起こします。ヒトでは2才過ぎまで、母親の腸内細菌に汚染されていないきれいな母乳をおしゃぶりとともに与えて育てれば、6才迄病気知らずに育ちます。乳児の腸は大人とは全く異なり、3才からヒトによっては5才迄腸内の微生物はほぼ自動的に顆粒球に取り込まれ、体中を自在に巡り、脳はもとより体中のすべての細胞に細菌やウイルスをばらまいて細胞内感染症を発症するとともに体中の細胞核内の染色体内にジャンクゲノムとして居座り続けて宿主のヒトや動物がくたびれるのをひたすら待っています。

脳には血液脳関門のない脳下垂体か脈絡叢から、離乳食で腸内に湧いて出た悪玉菌が、顆粒球に抱えられていともたやすくフリーパスで脳脊髄液内に入り、顆粒球がこれらの菌を脳内でばらまいてニューロン内に細胞内感染症を起こします。脳全体がバイ菌に汚染される脳症を起こすと、しゃべれなくなったり発達障害になります。このことは世界中の小児科医が全く知らないのです、今でもこの子らを手をこまねいて見ているだけです。西研では、かなり容易に完治させています。こうして乳児の腸の性質を知るだけで赤ちゃんの難病はいともたやすく予防も出来るし治せるのです。そして冷血動物と温血性の恒温動物の違いを知り、ヒトの生きる道を知るだけで健康で輝かしい人生が待っているのです。

皆さん、質量のないエネルギーに目醒め、重力作用が **build in** されている生体力学に目醒め、ミトコンドリアのエネルギー代謝に目醒めて下さい。「口呼吸」と「アイスクリン」や「冷中毒」で体中の器官や臓器、細胞が無害な自分の共生している腸内細菌に汚染され、細胞内感染してミトコンドリアが荒廃しているのが三大難治性の疾患の本態なのです。脳のニューロン（神経細胞）にこれが起こったのが精神疾患です。体中の臓器や器官にこれが起こってその器官の組織・細胞が働けなくなったのが免疫病です。同様に体中の臓器の細胞の働きのうち、分裂・増殖・リモデリングを取り仕切るミトコンドリアの働きが駄目になったのが悪性腫瘍です。原因の大半が腸内の常在性微生物ですから、ビヒズス因子で腸を善玉菌に整えるとともにほんの少量の有効な抗生物質をニューロン・ミトコンドリア共鳴診断法で判定して投与すれば、前章までにお示しした如く劇的に完治します。手遅れでなければ治せます。この手法で治ることが、ニューロン・ミトコンドリア共鳴診断法の正しさを示すエヴィデンスです。

ここにミトコンドリアの図を示します（図13）。皆さんミトコンドリアを活性化するように怠ることなくつとめましょう。この共鳴診断法による新しい医療体系がミトコンドリア医学です。これにより治る西洋医学が復興し、穏やかで平和な健康に満ちた人間生活が復活するのです。

その2、歯科口腔科内科医科大学大学院改革試案

全国の医科大学の基礎的教養的必須基幹科目に、重力エネルギーを内蔵した生体力学にもとづく生命科学の科目 (Biomechanics-based Life Science) を設置することと、宇宙にあまねく存在する時間と空間と質量のある物質の三者と、物質が本性として内蔵するエネルギーの様態すなわち光と熱と重力の三つを加えて宇宙のクインテッセンスとしてすべての科学の基幹思想とすることを提言します。これは「物質もまたエネルギーの一樣態である」とする、アインシュタインのことばを科学の世界で実地に活用するものであります。「多細胞の高等生命体は重力に逆らって心臓ポンプで支えられる体液の循環によって生きていて、1日1兆個の細胞が作り替わること、殆どの生体に働く力学作用は、体液の流動に変換され、この流体力学と共役した流動電位に翻訳されて、これが触媒となってステムセルの遺伝子に作用し、遺伝子の引き金を引く遺伝子発現によって細胞の機能も形も変化する化生 (metaplasia) 現象によって変容することを体得することが必須です。」この考えを基幹として導入すれば基礎も臨床医学もすべては極めてやさしくなります。

その上で『「顔と口腔の医学」を担う「歯科口腔科内科医師」養成のための大学院構想』を実現すれば、治りにくい現代医療から容易に脱却出来て治る医学が復活し、予防医学も健康増進医学もよみがえるでしょう。

そこで、生体力学を導入した「歯科口腔科内科医師」養成のための大学院構想についての試案をここに述べます。

本構想は、すべての医師を指導できる医者の中の医者と言われる歯科口腔科内科医師を養成する大学院構想であります。今日の医療では医学と歯学の教育が完璧に分離して行われています。現在医学も、歯科医学も著しく発達したにもかかわらず、国民の難治性疾患（免疫病・癌・精神病）は増加の一路をたどっています。これらの疾患は、著者が『重力対応進化学』（南山堂）と『顔と口腔の医学』（医歯薬出版）で明示したごとく原因の殆どが「顔と顎口腔」の使い方（行動様式）の偏り、すなわち「口呼吸」と「口中の不潔」と「氷冷飲食」および「短睡眠の骨休め不足」のごとき生活習慣の誤りが原因となっています。

顎顔面口腔の健康と保健と健康増進が国民にとって最も重要である事は論ずるまでもありません。今日のごとく、早期の離乳食による乳幼児の口呼吸・丸呑み・でたらめ寝相で日本の学童は危機的状況にあります。これは歯が生えそろった2才半よりはるか前に、殆ど咀嚼出来ないうちから哺乳動物の乳幼児に有害な離乳食を強要するためであります。離乳食の蛋白質により腸内が悪玉菌に満ちて、これが三才迄は自動的にパイエル板から白血球に取り込まれて血液を巡り、血液脳関門のない下垂体と脈絡叢から白血球に抱えられた腸内の悪玉菌が脳脊髄液（リンパ液）内ではらまかれてニューロン内に入り脳症を起こします。これがアスペルガー、自閉症、発達障害です。この子らが今日育って最年長者はすでに36才に達します。そして国民全体の健康を監視し生活習慣の誤りを正す医学者は欧米とは異なり日本では皆無なのです。三大難治性疾患のすべては鼻と口と喉と咀嚼器と肺呼吸器の正しい使い方と正しい睡眠と寝相と腸を温めることで

防止できます。

しかしわが国の医学教育で最も欠落しているのが「顔と口腔の医学」です。それはまさに最重要臓器に関する医学が歯学部ですべて委ねられているためです。ヨーロッパでは、この最重要部が発生学の鰓腸に由来する内臓頭蓋に相当するため、学問が成立する過程で顎口腔は最重要器官としてすべての医師がそれを認識したうえで医療にたずさわって国民の保健を守っています。

しかし、わが国の歯学部は歯と口腔、顎が鰓腸由来の最重要器官であることの認識がほぼ完璧に欠落しています。これは米国流の虫歯の処置法と抜歯術と入れ歯の作り方の19世紀中頃にできたギルドの教程をそっくりそのまま直輸入して、時代の進展した後も旧態をかたくなに堅持しているためです。それで、ただ歯の治療と抜歯と入れ歯やインプラントに収斂しているばかりなのです。

わが国の医学にも歯学にもともに欠落している鰓腸の重要性を認識することが何よりも重要です。鰓腸が深くかかわりを持つ臓器は脳・眼・鼻・顎口腔・咽喉・肺と心臓から横隔膜のほか、腎臓・副腎等の泌尿・生殖系器官を含めたすべてです。わが国でこの最重要臓器に関する医学と保健を有効に実施するには、もはや既存の制度をいくら修正しても不可能です。そこで「顔と口腔の医学」を担当できるスーパードクターの制度を世界に先駆けて制度化することをここに提言するものであります。これは東京医科歯科大学の前身の東京高等歯科医学専門学校を創始した島峯徹先生の旧制の「口腔科医科大学」（両面医師免許証による歯科口腔科医養成）の構想を、今日のわが国の制度に適合させたものであります。

医科大学・歯科大学を修了した医師に対して5～6年間の大学院においてそれぞれ3～4年間ずつ歯科医学コース、医科学コースを設け、その後の2年間で顎顔面鰓腸関連（心、腎、肺、泌尿器、生殖器から鰓器関連の皮膚、眼、耳、脳、脊髄、手、足、胸部、腹部を含む）のテーマで学位研究を行う。修了時学位の審査とともに各免許証の試験を受けるものとする。

本大学院構想の名称を『歯科口腔科内科（両面）医師大学院大学構想』とする。本大学院を設置することが出来るのは以下に示す医学部歯学部の両学部を併設している大学のみに限るものとする。

医・歯学部併設・国立	
東京医科歯科大学	岡山大学
北海道大学	広島大学
東北大学	徳島大学
新潟大学	九州大学
大阪大学	長崎大学
鹿児島大学	

医・歯学部併設・私立
岩手医科大学
昭和大学
日本大学